

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「秋」俳句会】
立つ人へ葬送曲か秋しぐれ
小林 啓治

乗降客無くて枯野へ発車する
萩原 勲彦

月見団子供えて母と同じ齢
三代 みちよ

一人ぼっち足跡残す秋浜辺
入山 ひろ子

鳥になり飛べたらいいね秋筑波
若色 寿美女

弟の静かに逝けり渡り鳥
金田 とう女

栗だけが見える目となり栗拾ひ
細谷 充女

空高し形変わるやうはき雲
永瀬 ちい

収穫のささげ色濃し夫の汗
齋藤 みよ

干し竿に日の移りたり今朝の秋
萩原 きしの

【茂山俳句会】
きちきちが逃げ込む茶屋の古暖簾
海老沢 静夫

辞書を引く苦吟の末の秋暑し
植田 祥雲

あるなしの風に転げる芋の露
松崎 いま

虫時雨座敷童子の一間にも
君島 真理子

秋刀魚焼く煙の出ない調理器具
海老沢 幸子

白萩や揺れ止む隙に蝶を吐く
今井 繁子

暮らし向き見に来し母か秋の蝶
鈴木 ノブ子

無口なる竹馬の友とにこり酒
金子 弘毅

ふるさとに叱る母なく十三夜
宮本 芳江

新涼や一輪挿しの今朝の花
田崎 信子

敬老会去年の顔がひとつ消え
笠倉 陽子

宝塔の天の華やぎ百日紅
竹林 てる

青々と穂萌えたつ夕景色
大関 くに

ありがたし新米一升わが家にも
吉原 京子

抜け道は秋海棠のまどろめる
吉原 秀子

握っては均してみては今年米
飯山 昭

【一般投稿】
佐竹寺は坂東札所小鳥来る
木下 善信

短歌

【やまと早蕨歌会】
耕運機たがやす畑黒い土やわらかくなり匂い
ただよう
榎戸 栄子

手習いに心安らぐ夜もふけて
いよいよよしげ
木藤 とみ

雨ふりて土砂もほこりもおちつきて吾はやさ
いの植えつけいそぐ
佐藤 悦子

秋立てば瀬戸の小やぶの音楽家こえをそらい
て歌い出したり
田中 きみ

亡き夫はもしも人生二度あれば土に親しむ農
をしたいと
中原 すみ子

さはさはと風わたりゆく野一面ひびく梵鐘穂
田に泌み入る
中島 龍子

野仏にかかるく一礼刈田道を夫と歩みぬ夕映え
の中
北条 正子

冬告げる庭の日陰の山茶花はめだたず急がず
ひっそりと咲く
皆川 米子

俚謡

【さくら俚謡会】
家族揃って名月仰ぎ歌う童謡村祭り
岩瀬きみ子

冷えた身体を温めあって野辺で眺めた十三夜
つく志輝美

すすき騒めく山路の風は愛すふたりを包み
こむ
一木 みどり

月のいろまでしつぽり濡れてそのまま甘えた
影ふたつ
稲葉 建正

恋の苦しき嬉しさなのか涙うるうる萩の花
田哲人

介護でお困りの方
介護のご相談は
居宅介護支援事業所 さくらがわ
電話 0296-20-6071

入所・ショートステイ・通所リハビリテーション
介護老人保健施設 さくらがわ
☎0296-20-6071
内科・外科・消化器内科・循環器科・呼吸器科・耳鼻科
延島クリニック
☎0296-58-5058